



## 乳幼児期の今・・を大切に

秋に植えたちゅうりっぷの球根が、土の中から、ちょこんと芽をのぞかせています。身を縮めるほど寒い朝もあれば、日中の陽だまりが、春の訪れを感じさせる暖かい日もあります。寒さに負けない身体づくりを工夫したり、この季節ならではの生活やあそびの中で、子どもたちが様ざまなことへの興味を示し、発見したことをしっかり受け止めていきたいと思います。

○歳児クラスの8名の子どもたちは、保育室で段ボール滑り台を滑ったり、登ったり、同じ玩具を手に取っても面白いと感じる視点が一人ひとり違っている姿を見せてくれます。エントランスへ出ていくと、事務室を覗いて声を出して呼びかけ、反応を待つ子や階段を上ろうとする子、ボタンインコのピーちゃんの様子をじーっと見る子どももいます。月齢差もあり、一人ひとりの興味の先は違っていますが、少しずつ友だちの存在に気づき、友だちが遊んでいるものに関心を持ち始めています。1歳児クラスにある、ままごとコーナーのテーブルの周りで、まねっこごっこあそびが始まると、保育者を介して、○歳児が集まってくるという場面も見られました。安心できる場所で、信頼している保育者のそばで過ごしながら、言葉にならない思いを保育者が読み取り、丁寧に関わっていくことで自己肯定感(自分を好きと思えること)が育つようにしています。

保育園で過ごすO歳から5歳までの乳幼児期には、やってみたいことを自分で選び、考えながら試すことを繰り返し、いろいろなことにチャレンジすることや、自分の思い、言いたいことを言える環境の中で過ごすことが大切だと考えています。また、やってみたいことを実現するためには、どうしたらよいのか、など保育者や友だちとの対話の中で気づいたことを試行錯誤しながら実践し、失敗も繰り返しながら達成感を味わえる経験を存分にできるように心がけています。あそびの中で、子ども一人ひとりの得意なことやおもしろいと感じていることをみんなで共有する場があることで、お互いに認め合いながら「よし!自分も」と、粘り強くチャレンジしていくことができるようになります。様ざまな人と関わる中で、こんな考え方もあるね、と自分の考えとの違いを受け入れ、物事をいろいろな角度から見て、新しいことへ挑戦できるように見守っていきたいと思います。

さて、もうすぐ進級、就学の時期となります。一つ大きい学年になることや、小学一年生になることは、 わくわくした嬉しい気持ちと同時に「これができなかったらどうしよう」と見通しが持てないことに対して 不安な気持ちになることがあるかもしれません。年長児は、今月「学校ごっこ」があり、学校でどんなこと をするのか、どんな勉強をするのかなどを一年生との交流の中で教えてもらうことで、学校に行くことが、 より楽しみになると思います。

ご家庭でも、進級、就学することが楽しみになるように声をかけて、励ましてあげてください。家庭でしかできない生活リズム(早寝、早起き、朝ごはん)を整えていきましょう。そうしていくことで、小学校や保育園での生活を心地よく、スムーズに送ることができます。急に何かをやり始めるのではなく、今のお子さんの状況を見ながらお子さんと話をし、進めていけるといいですね。

## まめまき



節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつ頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り目として、3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられたからです。

鰯の頭を家の入口に刺したり、柊の木の枝をさしたりするのは、鬼は鰯が嫌いなので逃げていくため、柊は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだと言われています。

参照: なるほど行事ブック



## とんどまつり

~お正月さん さようなら~ 地域の方が集まって保育園用のと んど作りをしてくださり、無病息災を 願って点火しました

もくもくと出る煙を見たり、竹の焼ける「パアーン!」という音に歓声を上げながら楽しみました

とんどの火で焼いたお餅を砂糖醬油 やきな粉をつけておいしくいただき ました

地域の方が作ってくださった鬼のあみぐるみを 飾ると興味津々で「赤がいい!緑が好き!」 怖いけど鬼が気になります







人・モノ・・環境の中で育つ



畑で収穫した大根を使っているいろつくってみよう!ということで乳児クラスは大根もち、幼児クラスは大根入りみそ汁を作っておいしくいただきましたまた、干し大根づくりにチャレンジ!大根に穴をあけ紐を通しつるすと大根に変化が・・「カサカサになっと

ザクッ 箸で大根に穴を あけるのが たのし~い

